

C 支援教育・児童指導部 思いやりと感謝の心を持つ子

- 互いを認め合い、信頼し合える集団づくり
- ・校内共通理解の上での、特別活動の推進
- ・CO・SC・保健室・通級連携の上での支援体制の強化
- ・「あいさつ運動」の定着
- ・適切なICT活用

評価対象	項目	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	思わない	分からない
児童	1 学校へ行くのが楽しいです。	57%	26%	6%	5%	6%
	7 相手の事を思いやり、進んで(身近な人にあたたかい心持で)親切にしています。	47%	39%	5%	1%	8%
	8 「ありがとう」と周りの人に感謝の気持ちを伝えていきます。	62%	28%	5%	1%	4%
	9 家族・地域の人・先生や友達にあいさつをしています。	50%	33%	10%	3%	4%
教職員	9 子ども一人一人の良さや可能性を認め、褒め、励ましてやる気を育てている。	74%	20%	3%	0%	3%
	10 集団を通して、課題解決・人間関係を学ぶ特別活動を推進している。	63%	29%	3%	0%	5%
	11 いじめ・不登校の早期発見と 個に応じた指導、支援を行い、各所との連携に努めている。	83%	11%	3%	0%	3%
	12 あいさつの大切さを説き、指導している。	63%	31%	3%	3%	0%
	13 ICT活用を進んで行っている。	29%	46%	20%	0%	5%
保護者	8 学校では、子どもの悩みや問題行動について適切な支援・相談が行われている。	27%	43%	12%	2%	16%
	9 お子さんは思いやりを持って行動し、あいさつを大切にしている。	32%	52%	11%	1%	4%
	10 ご家庭で、お子さんに生活上のルールやマナー(あいさつを含む)を守ることを大切にしている。	59%	37%	4%	0%	0%
	11 ご家庭でお子さんの悩みに共有し、相談する時間を意識して設けている。	43%	47%	8%	1%	1%
地域 (コミュニティ・スクール関係の方々)	5 児童は 安心して楽しく学校に通っている。	62%	16%	0%	0%	22%
	6 児童は、生活上のルールやマナー(挨拶を含む)を守ろうとしている。	34%	38%	6%	0%	22%

【考察】

①保護者の「児童の悩みに対して、適切な指導・支援が行われている」に対する回答が、分からない・ややそう思わない・そう思わないを合わせると3割を越えている。

⇒ 各担任・担当は、関係職員、管理職と連携し、丁寧な対応を推進しています。この結果は「指導・支援の内容を家庭に伝えきれていない」ことに要因があると考えられます。指導・支援をした際は、家庭への連絡を更に綿密に行うということを学校として推進していきたいです。

②児童・地域の回答「あいさつに関する項目」の数値が他の質問に比べて低くなっている。

⇒ 次年度以降も児童会主体のあいさつ運動を継続して行っていきたいです。またあいさつ運動の期間だけでなく、普段から子ども達のあいさつを活性化するための取り組みも考えていく必要があると考えます。

③子どもアンケート「学校へ行くのが楽しいか？」という問いに対しての回答が「やや楽しくない・楽しくない・分からない」を合わせると20%弱ある。

⇒ 子ども達のその時々での現状把握を細かに行う必要性を感じています。個人面談やQJだけでなく、日々、子ども達の声を受け止める機会の設定を更に推進していきます。

④ICTの活用について

⇒ ハード面は整いつつありますが、デジタル教科書以外のデジタル教材や校務のデジタル化に不十分な面が反映し、満足度が低くなったと推察します。DX推進校の実践を参考に、本校に合ったICTの活用を今後も模索していきます。

⑤保護者アンケートより(8・10・11)

⇒ 保護者としては家庭教育は十分で、学校が不十分との思いがあるように受け取れました。学校が児童の実態に合わせて真摯に対応していることが伝わるよう、連絡を密にしていきたいことを心がけます。

⇒ 「保護者が思う通りの指導を学校がしてくれない」と思っている方が、少なからずいる事を深く受け止めています。学校はここまではできるが、ここからはできない、集団の中で子ども同士の関わりの中で個を育てるということを伝え続ける必要を感じました。

⑥地域アンケート(5. 6より)

⇒ 来年度より、地域アンケートを普段から子どもと近い距離で動いてくださっている方々の意見も含めていく方向を考えています。(おかつこの方など)